

## 第3編 再発防止に向けて

### 提言

遊漁船・瀬渡船海難の分析によって明らかになったことは、国民のマリンレジャーの志向により日曜日等の休日にプレジャーボート、遊漁船、瀬渡船などが集中する海域での衝突事故が多く、かつ、漁船の操業海域と競合することも少なくないため、衝突の相手船は、漁船が38.8%を占めていることなどである。衝突の原因をみると、適切な見張りなどの海上交通における基本的なルールの欠如、いわゆる船長に係る人的要因に起因する事故が目立っている。

遊漁船・瀬渡船の安全運航などについては、すでに水産庁、海上保安庁をはじめ（社）全国遊漁船業協会や全国釣船業協同組合連合会などから事故防止のための諸施策がなされているところであるが、海難審判庁においても今回の分析を踏まえて、主に衝突事故について次のような防止策を図ることを提言する。

#### 遊漁船関係団体への提言

漁業協同組合、事業協同組合などの遊漁船関係団体は、遊漁船業を営む者と協力し、安全への啓蒙や徹底した指導を図る必要がある。

遊漁船関係団体は、釣り客の安全確保のうえで重要な、出航（中止）などの運航基準を船長に委ねることなく、各組合などで定めることが望ましい。

遊漁船関係団体は、気象・海象に関する情報や関連する海域の海潮流などの情報を収集し、遊漁船業を営む者に提供することが望ましい。

#### 船長（遊漁船業者）への提言

遊漁船・瀬渡船海難の4分の3は衝突事故であることから、海難防止対策のほとんどは衝突に関する防止策といって過言ではない。

そこで、船長に対しては、次の一般的な事故防止策を提言するほか主に衝突事故の防止策について、提言する。

## 一般的な事故防止策

船長は、自ら必要な海事知識と技術を習得し、釣り客の生命を預かるという意識を持ち、安全運航に関する適切な判断を行うこと。

常に気象情報を入手し、荒天が予想される場合には、出航を見合わせるなど、的確な判断をすること。

釣り客に対して運航計画を十分に説明し、釣り場の様子、往復の航海の状況、当日の気象状況などについても周知しておくこと。

船長は、釣り客には常時、救命胴衣を着用させること。また、救命胴衣の着用に当たっては、正確な着用方法について指導し、その着用状態を確認すること。

定員を厳守すること。

## 衝突事故の防止

### 発航前の注意

釣り場までの航程、遊漁をする時間、帰航時刻などについて、無理のない運航計画をたてること。

他船を避けるなどの基本となる自船の運動性能（速力の変化、舵効きぐあい、旋回の様子など）を再度確認してから発航すること。

### 航走中の注意

原因のワースト1 船首部浮上による死角に対する見張り不十分が約 20%！！

釣り客が船首部に乗船したことによる死角の発生も2件

原因のワースト3 第三船の方向のみを見ていて見張り不十分となったものが約 12%！！

航走中は、船首が浮上し船首方向に死角が生じることが多いので、船首を左右に振ったり、窓から顔を出したりして船首方の死角を補う見張りを行い、他船の動きに注意すること。

僚船との接近時や無線電話による連絡など、仲間からの情報収集に気をとられ、見張りがおろそかにならないよう注意すること。

衝突事故を防止するためには、海上衝突予防法などに定められている航法、灯火象物の表示及び各種信号の吹鳴等を遵守すること。

### 漂泊・錨泊して釣りをを行う際の注意

衝突事故は、遊漁船が遊漁中（漂泊・錨泊中）に約 35%と最も多く発生！！

船長の見張り場所が、相手船の進入方向の反対側に位置している例が多い。

接近してくる相手船は、死角に対する見張りがおろそかになっていた、ほかの船（第三船）ばかり見ていたなど、自船に全然気付かなかった場合がほとんどである。

原因のワースト2 船長自から釣りに熱中したための衝突事故 14.1%

～『他船が近づいてきたら、相手船に避航を期待するな！！』～

錨泊中は、錨泊中であることを示す形象物を表示すること。

漂泊・錨泊中といえども、厳重な見張りを行うこと。

他船が接近するのを認めた場合は、相手船が自船を認めていないことも念頭に置き、相手船のみに避航を期待せず、接近する船に対して警告信号を行うこと。

他船が接近する場合は、余裕をもって機関を準備し、衝突のおそれがあるときは、必要に応じて機関を使用するなど衝突を避けるための措置をとること。

釣り客の対応など遊漁船業にかかわる作業を行うことは当然ながら、その間にも十分な見張りを行うこと。

自らの釣りはなるべく避け、船長として、常に周囲の船舶の動静を監視すること。

### 釣り場を移動中の注意

釣り場移動の理由は、71%が釣果がおもわしくないため！！

釣り場移動中、魚群探知器による探索時の衝突事故が 35.5%

～『良い釣り場には、必ず他船がいる・・・周囲を見張れ！！』～

周囲には、多くの船舶が存在することから、衝突の見合い関係を回避しても、すぐに第三船（衝突回避した船舶以外の船舶）と見合い関係が成立する可能性があるため、常に周囲の船の動静を監視すること。

良い釣り場を探すため、魚群探知器を監視するときには、周囲の船の動静を把握してから安全な速力に減じて行い、探索作業を短時間とするなど見張りがおろそかにならないようにすること。

### 釣りを終え帰航中の注意

帰航中の衝突事故の 20.7%が下船準備作業等による見張り不十分！！

帰航中の衝突事故の約 8%が船長が漫然と運航！！

釣りを終えて帰航中の操船は、周囲を見張っているつもりが、疲労感、安堵感など

から、ただ漫然と運航し、帰航中のわずかな時間に事故を起こしていることが多いため、貴重な人命、財産を預かっていることを深く肝に銘じて見張りを十分に励行し、安全運航に心掛けること。

船長は、着岸後に当日使用したえさや釣り具などの後かたづけを行うこととし、帰航中は操船に専念して、十分な見張りを行うこと。

帰航中、前部甲板において、釣り客が帰り仕度のため、立ち上がり移動したりすると船首方向に死角が生じることがあるので、釣り客に対して操船の妨げとならないよう指示すること。

## 乗揚事故の防止

### 航走中の注意

航行海域における経験が豊富であることを理由に船位確認をおろそかにして、乗揚事故を起こしているケースがあるため、経験に頼ることなく、あらゆる手段を用いて、定期的に船位を確認すること。

常に海潮流の影響を把握して、圧流に十分気を付けること。

## 死傷等事故の防止

### 発航前の注意

甲板から海中へ転落のおそれがあるような箇所について、防護柵を設けるなど、安全措置を講じること。

航行中の安全を確保するために釣り客が遵守すべ注意事項を十分に説明すること。

### 航走中の注意事項

小型船であるため、うねりや風浪によって船体が動揺することを十分に考慮し、釣り客を安全な乗船位置に誘導するとともに、その行動を十分に把握すること。

動揺中、甲板上の危険な場所に釣り客が立ち入るような場合には、ただちに規制すること。

## 衝突（単）事故の防止

### 航走中の注意

船位を十分に確認すること。

夜間等においては、レーダーを活用して船位を確認すること。

### 釣りを終え帰航中の注意

疲れなどで眠気を催したならば、外気に触れたり、航行を中断して一時的に仮泊する勇気をもつこと。

～『尊い命を守ることからみると簡単なこと。勇気を持って対処を！！』～

夜間、釣りを終えて帰航中、帰航の港に近付いた際に事故の発生が多いことから、安心することなく、緊張をもって操船にあたること。

## 転覆事故の防止

### 発航前の注意

荒天の際に避難する港を選定しておき、速やかに避難できるよう港の状況について調べておくこと。

### 航走中の注意

波や風の状況に応じた針路をとること。

船体に波浪が打ち込むことのないような針路をとり、適切な速力とすること。

うねりを受けて狭い水路などに進入する際、追い波には十分注意し、危険と思われる場合には進入しないこと。

### 錨泊・漂泊して釣り中の注意

釣り中、気象・海象の変化に十分配慮し、悪化が予想される場合には、速やかに釣りを止めて帰航すること。

気象・海象の状況により、帰航の港まで安全に航行することが不安な場合には、近くの安全な港に避難すること。

# これを守れば衝突事故を防げます

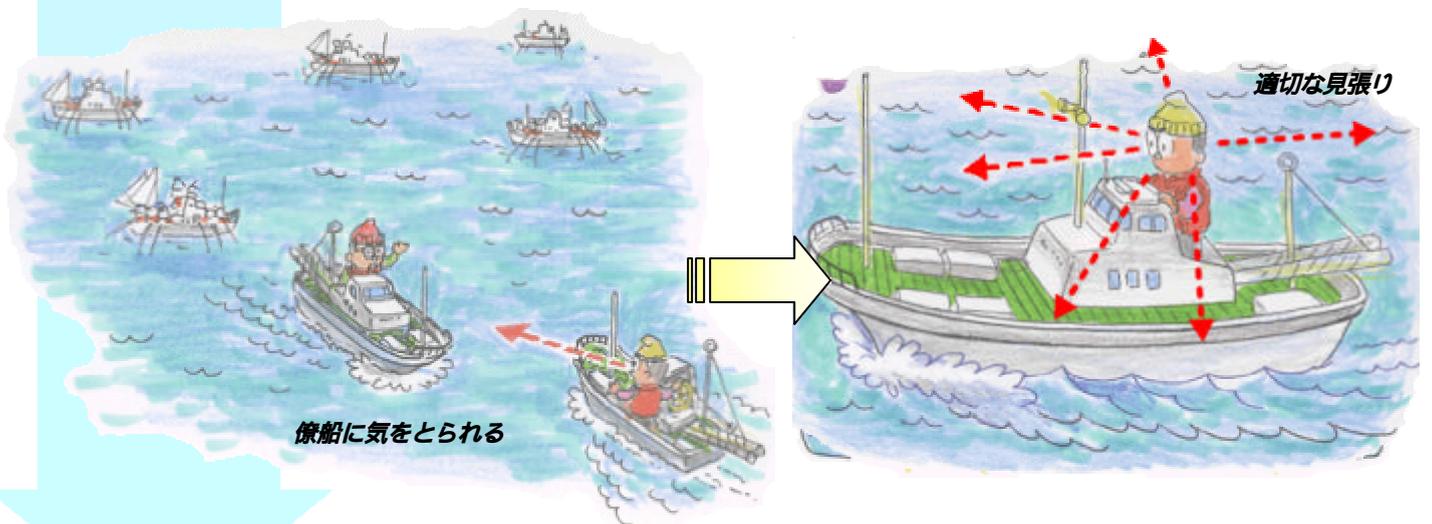
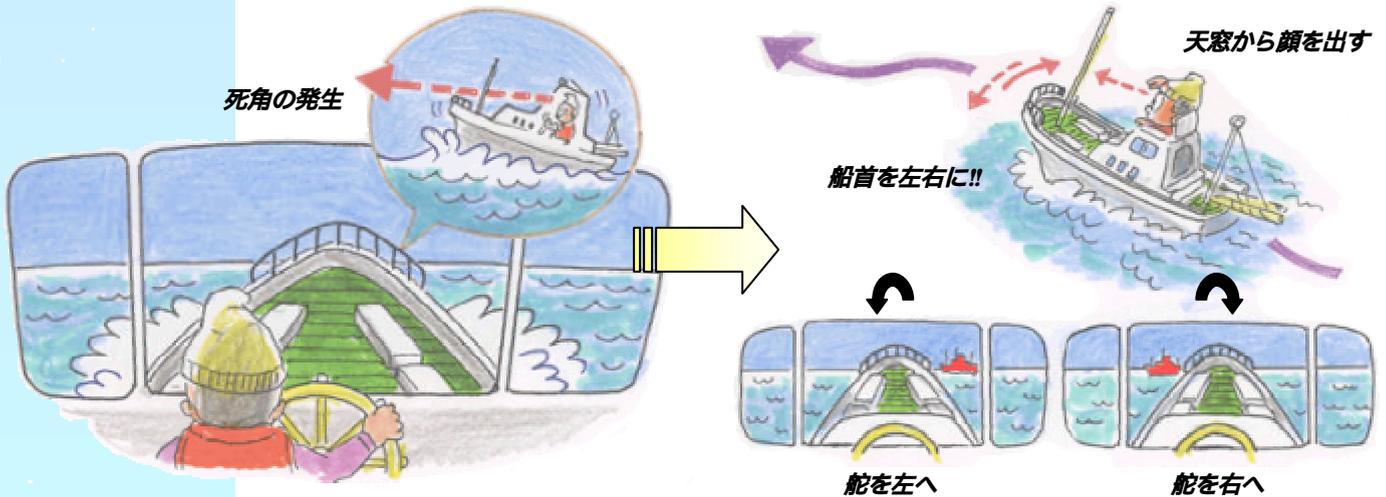
## 船長への提言

### 発航前

- 自船の速力の変化、舵効き、旋回性などを再確認しましょう。
- 無理のない運航計画を立てましょう。

### 航走中

- 見張りは、船首部浮上による死角の発生に注意しましょう。
- 僚船に気をとられて、見張り不十分とならないように注意しましょう。



## 遊漁中

- 相手船に避航を期待せず、次のことを行いましょう。
  - ▶ 錨泊中であることを示す形象物を表示しましょう。
  - ▶ 接近する船に対して警告信号を行いましょう。
  - ▶ 必要に応じて機関を使用できる態勢をとりましょう。
  - ▶ 釣り客の応対をしながらでも見張りを行いましょう。
  - ▶ 船長自らの釣りはなるべく避けましょう。



## 釣り場移動中

- 航走中、魚群探知器を使用するときには、周囲の動静を把握し、安全な速さに減じ、短時間に探索作業を行うなど、見張りをおろそかにしないようにしましょう。

前方に相手船が！！



## 帰航中

- 帰港までわずかな時間です。気を引き締めて操船しましょう。
- 釣り客が帰り支度を行う場合、操船の妨げにならないよう指示しましょう。
- 釣りの後片付けは着岸後として見張りに専念しましょう。

わずかな時間に  
事故が多発！！

Zzz



**適切な見張りで安心した釣りを！！**